



リハビリテーション医学の全体像を描く書

「目でみるリハビリテーション医学」

上 田 敏 著

リハビリテーション医療という新しい医学についての知識を深め、技術を収得しようとする場合に、まず障害となるものに、真の意味での参考書の不足があげられる。

たしかにリハビリテーションに関する洋書の、著名なものは翻訳されて市販されているものの、それらの種類と数はきわめて貧弱であり、中には原著者の一貫した理念や理論が理解できずに、自分勝手な誤訳や注釈をほどこし、日本語としても理解に困難なしろ物さえある。

最近ではまた、写真や図をいたずらに使用した傾向の本が多く、視覚に訴え理解を容易にしようとする意図は立派ではあるが、過度乱用のあまり内容が軽薄に流れ、週刊漫画の色彩の濃い本もある。

これらの本は、リハビリテーション医学の、啓蒙や発展のために寄与するどころか、かえってまちがった理念や、安易な医療や、更には理解困難な医学として伝播させ、せっかくのリハビリテーションに対する向学意欲を阻害する結果を招こう。

このような貧困なリハビリテーション図書の中に、価値ある参考書の一つとして忽然と出現したものに、上田敏博士著の「目でみるリハビリテーション医学」がある。

この書は著者が巻頭に述べてい

るごとく、リハビリテーション医学の全体像を、動的、区分的生成過程の中で、把握できるように努力した結集である。

内容はリハビリテーション医学の総論から各論に至る、4部からなっている。

まず第1部では、リハビリテーションの理念と組織と題し、チームワークの重要性をその根底に説いている。

第2部では、リハビリテーション医学の基礎学と題し、リハビリテーション医療が、明らかに医学の一分野であることを、学問的に説明づけている。

第3部では、リハビリテーション医学の実際（部門別）と題し、リハビリテーション医療のチームメンバーの、それぞれの職務とその範疇を明確に説いている。

第4部では、リハビリテーション医学の実際（疾病別）と題して、対象疾患の代表的なものの、治療のポイントとそのプログラムを的確に説いている。

読者はこの4部を通じて、広範囲に及ぶリハビリテーション医学が、総論から各論へと、それも理論から実際にわたり、統合と解釈の上手な組み合わせによって、少ない頁数にまとめられており、理解の容易なものには驚くだろう。この書の題名「目でみるリハビリテーション医学」のごとく、視覚に

訴える方法で、鮮明なカラー写真やシェーマなどを豊富にかつ適切にとり入れて、複雑混迷なリハビリテーション医学を、容易に理解できるようにしており、著者の聡明さとオリジナリティがうかがわれる。

この本はまた紙質も丈夫で美しく、価格も医学書としては低廉であり、購入も容易であろう。

リハビリテーション医学に興味を持ち、短期間にその何かを知り、立体像を把握したいと思う人にとっては、それが学生、療法師、看護婦、医師などの、リハビリテーション分野に働くチームメンバーのみならず、他の関係職業分野の人たちにとっても必読の本といえよう。

日本におけるリハビリテーション医学も、すでに洋書の翻訳時代、総論の時代はすぎ去り、オリジナリティのある各論の時代に進もうとしている。このような時期にリハビリテーションに従事するわれわれは、理論的にも技術的にも、より深遠なものを探求すべきである。リハビリテーション医学の、動的立体像の把握を容易にするこの書を基礎に、各論的将来に向って大いに飛躍したいものである。（A4変形、80ページ、2200円、東大出版会）

（九州リハビリテーション大学校
理学療法学科科長 和才 嘉昭）